

社団法人 川崎南法人会 定款

第 1 章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、社団法人川崎南法人会（以下「本会」という）と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、川崎市川崎区宮前町に置く。

- 2 本会は理事会の決議を経て、必要の地に支部を置くことができる。
- 3 支部の運営に関する規定は、理事会の決議を経て会長が別に定める。

第 2 章 目的および事業

(目的)

第3条 本会は、健全な納税者団体として全法人に誠実な記帳と適正な申告の普及徹底するとともに、租税に関する調査研究を行い、もって、公平な税制と円滑な税行政執行の確立に寄与し、併せて、企業経営と社会の健全な発展を図ることをとする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 1 税制および税務に関する調査研究ならびに建議。
- 2 租税関係の法令、通達等の周知徹底を図るための講習会、説明会等の開催。
- 3 経理、経営に関する講習会、説明会等の開催ならびに記帳指導の実施。
- 4 会員を中心とする納税貯蓄組合の設立および指導協力。
- 5 機関紙の発行ならびに上記各号の事業を行うに必要な各種資料の刊行、配布。
- 6 福利厚生に関する事業の実施。
- 7 友誼団体との強調。
- 8 地域社会への貢献等、社会の健全な発展に資する各種の事業。
- 9 その他、前条の目的を達成するために必要な事業。

第 3 章 会 員

(会員の資格)

第5条 本会の会員たる資格を有する者は、川崎南税務署の管轄区域内に所在する法、または法人の事業所で、本会の目的および事業に賛同する者とする。

(資格の取得)

第6条 本会の会員になろうとする者は、所定の申込み手続きにより任意に入会することができる。

(会員の権利義務)

第7条 会員は、事業活動につき、その便宜を受ける権利を有するとともに、この定款または総会の決議に従う義務を有する。

(資格の喪失)

第8条 会員は、次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を失う。

- 1 退 会
- 2 事業の閉鎖、または解散
- 3 除名

(退 会)

第9条 本会を退会しようとする者は、所定の退会手続きにより任意に退会することがて

(除 名)

第10条 会員が各号の一に該当する場合には、総会の決議により除名することができ

- (1) 会員としての義務の履行を怠ったとき。
- (2) 本会の名誉をき損し、または本会の目的に反する行為があったとき。  
前項の規定により会員を除名しようとする場合には、その会員に総会で弁明機会を与えなければならない。

(会 費)

第11条 会員は、総会の議決を経て別に定めるところにより、会費を納入するものとする

- 2 帰納の会費は、原則としてこれを返還しない。

(会員の名簿)

第12条 本会は、別に定める様式により会員名簿を作成し、これを本会の事務局に岸するものとする。

- 2 前項の会員名簿は、会員に異動を生じたつど、これを訂正するものとする。

## 第 4 章 役 員

(役員の種類)

第13条 本会に次の役員を置く。

- 1 理事60名以上70名以内

うち 会 長 1名  
副会長  
5名以上7名以内

専務理事

必要に応じて1名を置くことができる。

常任理事

33名以内

2 監事 1名以上4名以内

(役員を選任)

第14条 理事および監事は、会員の代表者その他役職員のうちからこれを選任する。

- 2 会長、副会長および常任理事は、理事の互選によりこれを選任する。
- 3 専務理事は、理事会の承認を得て会長がこれを選任する。
- 4 理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。

(役員職務)

第15条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、あらかじめ定められた順位その職務を代行する。
- 3 理事は、総会の決議に従い、本会の運営を協議、執行する。
- 4 専務理事は、会長を補佐し、事務局を掌理し、本会の常務を執行する。
- 5 常任理事は、本会の常務を審議、処理する。
- 6 監事は、民法第59条の職務を行う。

(役員任期)

第16条 役員任期は就任後第2回目の通常総会終了のときに終わる。ただし再任をしない。

- 2 増員または補欠のために選任された役員任期は、前項の規定にかかわらず、それぞれ現任者または前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、その任期が満了した後においても、後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

(役員解任)

第17条 本会の役員たるにふさわしくない行為があった場合、その他第10条第1項を以て類する事実があったときは、総会の決議によりその役員を解任することができる。

( 役員の報酬 )

第18条 役員は、原則として無報酬とする。

## 第 5 章 顧 問、 相 談 役、 評 議 委 員、 委 員 会、 部 会

( 顧問、 相談役および評議員 )

第19条 本会に顧問、相談役および評議員若干名を置くことができる。

- 2 顧問、相談役および評議員は、毎年度理事会の推薦により会長がこれを委する。
- 3 顧問、相談役および評議員は、本会の業務運営上の重要な事項について会諮問に応じる。

( 委員会 )

第20条 第4条に規定する本会の業務を分担するため、委員会を設けることができ

- 2 委員は、理事会の推薦により会員の代表者その他の役職員のうちから会長これを委嘱する。

( 部 会 )

第21条 第4条に規定する本会の業務を円滑に運営するため、部会を設けることが

( 規 定 )

第22条 委員会・部会の運営に関する規程は、理事会の決議を経て会長が別に定め

## 第 6 章 事 務 局

( 事務局 )

第23条 本会の事務を処理するため、事務局を設ける。

- 2 事務局には、職員若干名を置き会長がこれを任免する。
- 3 職員は、有給とする。
- 4 事務局の運営に関する規程は、理事会の決議を経て会長が別に定める。

## 第 7 章 会 議

( 会議の種類 )

第24条 会議は、総会および役員会として、会長がこれを招集する。

( 総 会 )

第25条 総会をわけて通常総会および臨時総会とし、いずれも会員の全員をもって招集する。

( 総会の開催および招集 )

第26条 通常総会は、毎年1回事業年度終了後2ヶ月以内に開催する。

2 臨時総会は、会長が必要と認めたとき、または会員総数の五分之一以上も事項を示して請求したときに開催する。

3 総会は、開催の日から少なくとも7日前に会議の目的たる事項・日時および記載した文書を発して招集する。ただし会長がやむを得ないと認めたと便宜の方法をもってこれに代えることができる。

( 会員の表決権 )

第27条 会員は、各1個の表決権を有する。

2 会員は、前項の表決権を行使するため総会に各1名の代表を出席させる。

3 会員は、委任状をもって、総会における表決権の行使を他の出席会員に委任することができる。この場合委任した会員は出席したものとみなす。

( 総会の議事 )

第28条 総会は、全会員の過半数が出席しなければ成立しない。

2 総会の議事は、この定款に別段の定めがある場合を除くほか、出席会員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

( 総会の付議事項 )

第29条 総会は、この定款に別段の定めがあるもののほか、次の事項を決議する。

1 事業報告および事業計画

2 決算および収入支出予算

3 理事会において、総会に付議すべきことを決議した事項

4 その他会長が必要と認めて付議した事項

( 役員会 )

第30条 役員会を分けて理事会および常任理事会とする。

2 理事会は、理事の全員をもって組織し、常任理事会は、会長、副会長、専任理事および常任理事をもって組織する。

3 監事、顧問、相談役および評議は、役員会に出席して意見を述べるこ

(役員会の開催および招集)

第31条 役員会は、会長が必要と認めたときこれを開催する。

2 役員会の招集については、第26条第3項の規定を準用する。

(役員会の議事)

第32条 役員会は、その構成員の過半数が出席しなければ成立しない。

2 役員会の議事は、出席役員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長が決するところによる。

(役員会の付議事項)

第33条 理事会は、この定款に別段の定めがあるものほか、次の事項を決議する。

- 1 総会に提出すべき提案
- 2 定款の変更に関する議案
- 3 総会において理事会に委任された事項
- 4 その他、会務の運営に関して、会長が必要と認めた事項

2 常任理事会は、理事会に代わり、常務の執行に関する事項および緊急な事項を決議する。

ただし、その決議事項は、次の理事会に報告してその承認を得なければならぬ。

(会議の議長)

第34条 すべての会議の議長は、会長をもってこれにあてる。

## 第 8 章 資産および会計

(資産の構成)

第35条 本会の資産は、次の各号に掲げるものにより構成する。

- 1 設立当初寄付された別紙目録記載の財産
- 2 会費
- 3 事業に伴う収入
- 4 資産から生ずる果実
- 5 寄付金品
- 6 その他の収入

(資産の管理)

第36条 本会の資産は、理事会の決議を経て別に定める方法により、会長がこれを決定する。

(資産の区分)

第37条 本会の資産は、基本財産および運用財産の2種類に区分する。

- 2 基本財産は、別紙財産目録のうち基本財産の部に記載する資産および将来基本財産に組み入れられる資産とする。
- 3 運用財産は、基本財産以外の資産とする。

(基本財産の使用の制限)

第38条 基本財産は、これを費消し、または抵当権その他の物権のために供してはならない。

- 2 事業の遂行上やむを得ない事由があるときは、前項の規定にかかわらず、理事会の決議を経てその一部に限りこれを処分することができる。

(経費)

第39条 本会の経費は運用財産をもってこれにあてる。

(収支、収支決算等)

第40条 本会の収入支出予算および決算は、事業計画および事業報告とともに総会承認を得なければならない。

- 2 前項の収入支出決算については、財産目録を付して監事の監査を受けなければならない。

(剰余金の処分)

第41条 収支決算の結果、年度末において剰余金が生じたときは、総会の承認を経、その全部もしくは一部を基本財産に組み入れ、または翌年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第42条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

## 第9章 定款の変更および解散

(定款の変更)

第43条 この定款は、総会の議決を経て、かつ、東京国税局長の認可を受けなければ

これを変更することができない。

(解散)

第44条 本会は、総会において会員の過半数が出席し、その三分の二以上の決議に解散することができる。

(残余財産の処分)

第45条 本会が解散した場合の残余財産は東京国税局長の許可を得て、本会と類似目的をもつ他の団体に寄付するものとする。

## 第 10 章 雑 則

(細則)

第46条 この定款の施行に必要な細則は、理事会の決議を経て別に定める。